



SAKAI Peace Contribution Award

第6回

自由都市・堺 平和貢献賞

The 6th SAKAI Peace Contribution Award

報告書

Report



目 次

ごあいさつ	1
-------	---

堺市長 竹山 修身

自由都市・堺 平和貢献賞について	2
------------------	---

授賞団体

さ き ま 佐喜真美術館	3
-----------------	---

フィリピン チルドレンズ プロジェクト Philippine Children's Project [PCP]	6
--	---

授賞式の様子	9
--------	---

これまでの授賞者・授賞団体紹介	9
-----------------	---



ごあいさつ

堺市長 竹山 修身

今年は、世界人権宣言が採択されてから、70周年を迎えます。20世紀には世界を巻き込んだ大戦が二度も起こり、人権は踏みにじられ、多くの人々の生命が奪われました。

世界人権宣言が採択されることによって、世界各国が協力して人権を守る努力をしなければならぬということが示されました。21世紀を「平和と人権の世紀」とするための努力が続けられています。しかし現在においても、世界では、紛争や貧困、飢餓などの人権侵害により多くの人々の生命や尊厳が脅かされています。

堺市では、昭和55(1980)年に、「人権擁護都市」を宣言し、昭和58(1983)年に「非核平和都市宣言に関する決議」を行い、平成19(2007)年には「堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例」を施行しました。そして、翌年にこの条例の理念に基づき、「自由都市・堺 平和貢献賞」を創設しました。アジア・太平洋地域の平和に貢献された方々を顕彰することを通じ、堺から世界に向けて、市民の皆様をはじめ多くの方々に国際平和の重要性を発信しているところです。

今般、第6回「自由都市・堺 平和貢献賞」の授賞団体が決定いたしました。授賞団体は、長年にわたって平和の実現に向けて地道に活動をされている、佐喜眞美術館並びにPhilippine Children's Project (PCP) です。佐喜眞美術館は、過去の戦争と向き合いながら、平和の尊さを後世に伝えている団体です。また、Philippine Children's Project (PCP) は、現在の貧困と向き合いながら、現地のニーズに寄り添った国際貢献活動をされている団体です。

2つの団体の活動内容は異なりますが、両団体がめざすもの、そして堺市がめざすものは同じ、『国際平和の実現』です。授賞団体の皆様の功績を称え、授賞式を挙行了きましたことを大変嬉しく思っています。

この賞をきっかけに、市民の皆様に、国際社会の一員として世界のさまざまな課題に対し関心を持っていただき、国際平和の実現のために何ができるかを考え、そして行動につなげていただきたいと思います。

最後に、第6回「自由都市・堺 平和貢献賞」の授賞にあたり、多大なるご尽力を賜りました選考委員の皆様及び、ご協力いただきましたすべての皆様に心からお礼申し上げます。

自由都市・堺 平和貢献賞について

(1) 事業概要

平和の実現及び人権課題の解決に向けて積極的に取り組んできた堺市は、平成18(2006)年の政令指定都市移行を契機に、国際平和の実現と維持をめざし、平和と人権の大切さを国内外に発信し、平和社会の実現に寄与することを目的として平成19(2007)年1月に「堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例」を施行しました。

この条例の理念に基づき、平和と人権尊重の重要性を発信し、市民の皆様をはじめ多くの人に国際協力、貢献活動に対する理解と認識を深めていただくとともに、世界で行われているさまざまな活動を支援し、一層の発展につなげ、都市として国際貢献を図ることを目的に、「自由都市・堺 平和貢献賞」を創設しました。

堺市は、「自由都市・堺 平和貢献賞」を通じて、国際平和の重要性をアジア・太平洋地域から世界に発信していきます。

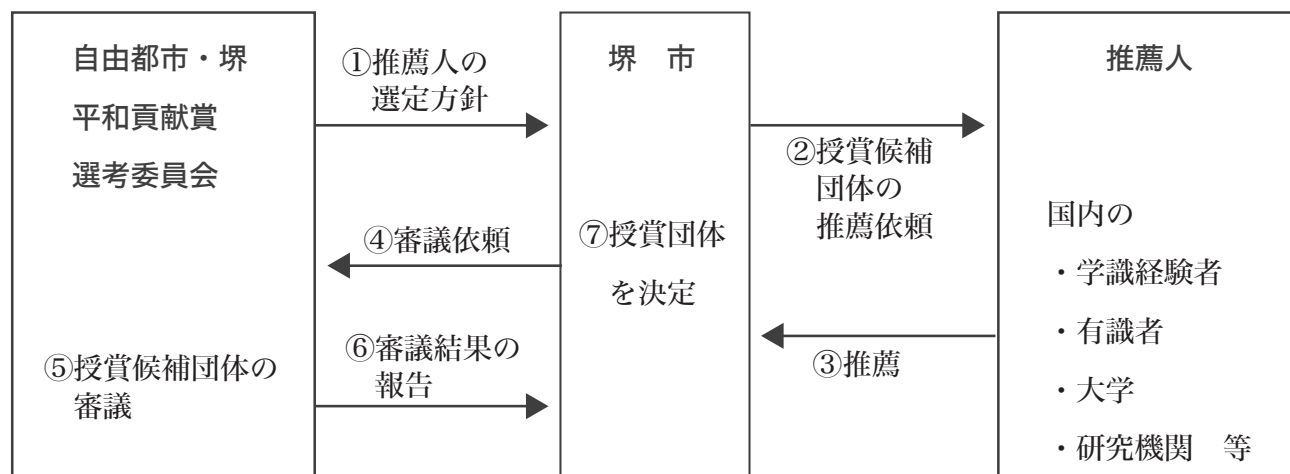
(2) 顕彰の対象

アジア・太平洋地域で国際的な平和貢献活動を行った団体

※第4回までは、国内外の個人又は団体を顕彰。第5回からは、国内の団体を顕彰。

(3) 選考の方法

国内の学識経験者、有識者、大学、研究機関等に授賞候補団体の推薦を依頼。推薦された候補団体を有識者で構成された選考委員会に諮り、その意見を踏まえ、市が2年に1回授賞団体を決定。



佐喜眞美術館



授賞団体紹介

○代表者：館長 佐喜眞 道夫 氏

○活動歴：

- ・昭和50(1975)年 佐喜眞 道夫 氏、「絵のコレクション」を開始
上野 誠、ケーテ・コルヴィッツ、ジョルジュ・ルオー、草間 彌生 等
- ・昭和58(1983)年 丸木 位里・丸木 俊 夫妻が「沖縄戦の図」に取り組んでいることを知って
心の底から喜びを感じる。
- ・平成 6 (1994)年 11月23日 佐喜眞美術館を開館
- ・平成23(2011)年 第33回琉球新報活動賞を受賞
- ・平成26(2014)年 岩波ブックレット『アートで平和をつくる沖縄・佐喜眞美術館の軌跡』を
出版
- ・～現 在 常設展示：「沖縄戦の図」丸木 位里・丸木 俊 作
年度ごとに、展覧会を開催

授賞理由

佐喜眞氏が、軍用基地となっていた祖先の土地に開館した美術館には、代表作でもある丸木位里・俊夫妻の「沖縄戦の図」をはじめ、戦争の実相を伝える作品が多数展示されています。それらの作品は、館長のガイドにより、美術館を訪れる多くの若者たちに平和の尊さを伝えていきます。

戦争体験者が減少する中、現地の言葉と圧倒される作品で、戦争についての記憶を後世に伝えています。平和教育を推進していくことを期待できるものとして高く評価します。

授賞団体のことば

活動のきっかけ

1972年、私は、沖縄の日本復帰以来急激に値が上がった軍用地使用料を、「島ぐるみ闘争」への分断策だと考えました。基地内に土地を持っていた私は、これを反転させようと、お金が活かされる方法を考え、長崎の原爆を描いた作品や貧しい人びとの生活や労働を描いた作品など、絵のコレクションをはじめました。上野誠、ケーテ・コルヴィッツ、ジョルジュ・ルオーなどを収集しはじめて10年がたった頃、「沖縄戦の図」を描いた丸木位里・丸木俊両夫妻との出会いがありました。

丸木夫妻は「沖縄戦の図」は沖縄に置きたい、と考えていました。私は過酷な状況にあり続ける沖縄の地に「もの思う場」をつくりたいと願っていました。丸木夫妻と私の想いが重なり10年の歳月を経て、1994年11月23日に佐喜眞美術館を開館しました。

目的やこれまでの取り組み

沖縄戦後の沖縄には、日米安全保障条約によって在日米軍基地が集中しています。^{ほんろう}翻弄される沖縄の地に、私は人々の内面を整える「もの思う場」が必要だと考えて美術館をつくりました。芸術の力でそれを実現できるのではないかと思ったのです。

たとえば、「沖縄戦の図」には沖縄戦の実相を徹底して描き込んでいますが、全体を丁寧に見ていくと、様々な出来事がモンタージュの形式で描かれ、個々の出来事として見えるのです。丁寧な線で描かれた人々からは画家の深い人間への想いが伝わってきます。残虐な戦争を描きながら「人間のいのちの尊厳」を感じ受け取る。この大逆転は、すぐれた芸術の力によってのみ可能なのではないかと思います。



美術館外観 (© Futoshi Hanashiro)



丸木俊絵本原画展に来た地元の幼稚園児

大切にしていることや将来の展望

佐喜眞美術館へは全国から多くの小中高校生や大学生が来館します。日本の未来を担う若い人たちにメッセージを送る仕事ですから、コレクションする芸術作品も「本物」、説明も「本物」でなければならないと努力しています。

授賞の感想や授賞団体にとっての賞の意味

その昔、沖縄は東アジアとの交易のなかで豊かな文化国家・琉球王国を築き上げておりました。その時代、日本への窓口は自由都市堺港でした。三線をはじめとして琉球からの豊かな文化は鹿児島ではなく、信頼関係の深い堺港から日本へ伝わっていきました。堺は、千利休をも輩出する豊かな芸術文化に富み自立した都市でした。

文化の型は、その後も長い間歴史に影響するものだと考えています。今回、受賞のお知らせを受け、私は、なにか尊敬しあっていた遠い親戚が探し出してくれたように懐かしく嬉しい気持ちになりました。そしていま、堺市が平和、人権問題に深く取り組んでおられることを知って深く納得いたしました。

堺市からの平和貢献賞の受賞は、佐喜眞美術館に大きな拡がりを与えてくれました。本当にありがとうございました。

堺市の思い

戦後73年が過ぎ、日本国内では戦争についてじっくり考える機会が減っていると言わざるを得ません。その中で、心を落ち着けて静かに平和について考えることができる場所であり、平和の尊さを後世に伝えている同美術館の存在は、非常に意義深いと考えています。



フィリピン Philippine Children's Project [PCP] チルドレンズ プロジェクト



授賞団体紹介

○代表者： 森口 郁子 氏

○活動歴：

- ・平成19(2007)年 ワークキャンプ参加者有志を中心に設立。児童養護施設の子どもたちとの交流と併設の私立小学校でリコーダー指導開始
- ・平成22(2010)年 大学生を受け入れ開始。現地での授業のデモンストレーションやフィリピンの人々が抱える問題や社会課題をテーマにディスカッションなど派遣前準備、事後研修を始める。
- ・平成24(2012)年 大学生企画の授業を実施。公立小学校で、ダンス（体育）、理科実験、公衆衛生講習などを行う。
- ・平成28(2016)年 9年間交流を続けた児童養護施設が閉鎖されたため、活動拠点を公立小学校に移し、別の児童養護施設と新たに交流を始める。
- ・～現在 毎年、活動報告書やDVDを作成し、報告会などで報告している。

授賞理由

フィリピンの子どもたちを対象に、寄贈を受けたりコーダーを活用した情操教育、公衆衛生講習、文化交流等を行っています。また、大学等のボランティア実習科目にも採用され、参加メンバーは大阪や神戸の特定非営利活動法人（NPO）や小学校で活躍しています。

情操教育で支援するというユニークな活動を行い、その活動はフィリピンの子どもたちや参加学生など人の心に直接届くものであり、平和貢献活動の普及が期待できるものとして高く評価します。

授賞団体のことば

活動のきっかけ

芦屋市国際交流協会のフィリピンでのボランティア事業が終了し、その参加者有志がフィリピンの人々と交流を続けたいという思いからPCPを立ち上げました。日本では小学校で誰もが習い、その後使わなくなってしまうソプラノリコーダーを集めて、教材のないフィリピンで楽器を演奏する音楽の授業をし、情操教育に寄与したいというのが元々の趣旨でした。フィリピンの方々と交流を進める中、私たちは無意識に「持てる者が持たざる者に与える」という心を持っていたことに気づかされ、また先の戦争でフィリピンの方が受けた心の傷や格差社会が、我々と無関係ではないことなど多くのことを考えさせられる機会があったため、活動にもそうしたことを学ぶプログラムを盛り込むようにしました。

目的やこれまでの取り組み

日中は小学校でリコーダーの授業をし、夕方や休日はストリートチルドレンのための児童養護施設で子どもたちと話したり遊んだりしました。2010年から大学生の参加が増え、国際情操教育協力、児童養護施設支援に加え、人材育成も目的の一つとなりました。小学校ではリコーダー授業の他に、学生メンバーが企画したダンスや理科実験などに取り組むとともに、日系企業や一般家庭、第2次世界大戦の戦跡、ピナツボ噴火被災地などを訪問しています。

現地活動の前には事前研修を約2か月間行います。教案を考え模擬授業を繰り返すことで、全く経験がない人でも教壇に立って授業をすることができるようになります。また事後研修でも、フィリピンでの体験を踏まえて国際問題、貧困問題、福祉、幸福感などについてディスカッションをしています。活動後、多くの参加者が地域や社会の諸問題の解決に取り組んだり、国際協力活動に進んだりしていくので、大変励みになりました。



公立小学校で公衆衛生・防災授業



職業訓練校のある児童養護施設で

大切にしていることや将来の展望

参加したい人は誰でも受け入れ対等な立場で活動する。そしてフィリピンの人とも協働し、お互いが助け合い学び合うというのが発足当初からのスタンスです。組織を持たず会計もシンプルにして、年に1度必ずフィリピンへ行くというミッションの実現だけを最優先に1年1年を積み重ねてきました。長年支えてくれたフィリピンのコーディネーターが他国へ移住したり、交流を続けてきた児童養護施設が閉鎖されたりと、継続を危ぶまれることも多々ありましたが、その都度いろいろな方が手を差し伸べてくださったお陰で、続けてこられたんだと改めて感じています。今後も、フィリピンの小学校の先生方や児童養護施設のスタッフの方々と緊密に連携をとりながら、公衆衛生、防災減災などの授業にも取り組むとともに、就学支援プログラムを創設したいと考えています。

授賞の感想や授賞団体にとっての賞の意味

この度は、私たちのような市民有志による地道な国際協力に対し、自由都市・堺 平和貢献賞という大きなご評価をいただいたことを大変光栄に思います。ご推挙くださった方々、堺市の皆様に心より感謝申し上げます。今回の受賞は、私たちにこれまでの活動を振り返り、今後の取り組みについて考える好機を与えていただきました。

これからも互いを認め合い自分のできることを積み重ねることが平和の第一歩であることを心に刻み、国境を越えてより多くの人々とその思いを共有できるような活動をしていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

堺市の思い

文化、年齢、性別、国籍、能力の如何の有無等に区別されずに暮らすことができるユニバーサル社会の視点で現地の方々に寄り添った活動を続けている団体です。

活動には本市在学の学生をはじめ若い参加者も受け入れるなど、団体の取組からは学ぶことが多くあります。



授賞式の様子

開催日：平成30(2018)年7月24日 場所：市長応接室
出席者：授賞団体代表者 選考委員長 寺迫 正廣 氏

○ 佐喜眞美術館（佐喜眞 道夫 氏、佐喜眞 加代子 氏）

【団体挨拶】このような遠い場所から賞をいただいたことに驚いているのですが、堺とは、沖縄が琉球王国だった時代から、歴史的につながりがあるので、大変、嬉しいです。小さな美術館ですが、中国や韓国にも絵を貸し出したりしています。24年目になった今年は、来場者がほぼ100万人に達しました。今回の受賞は、活動を続けていく上で、大変励みになりました。

○ Philippine Children's Project [PCP]（森口 郁子 氏、中村 泰子 氏）

【団体挨拶】このような小さな団体の活動を見つけて、表彰していただけたことに、堺市の懐の深さを感じ、感謝しています。自分たちの活動は組織もなく形の残らないものですが、近年は被災地などでもこのような形態のボランティア活動が増えています。今回の受賞を機に私たちの活動に関わった人たちが、その体験をもとに活動の場を広げられるよう、ますます努力していきたいと思います。



これまでの授賞者・授賞団体紹介

- 第1回【平成20年】 大 賞 ジハン・ペレラ 氏（平和活動家）
奨励賞 吉岡 秀人 氏（医師）
奨励賞 特定非営利活動法人 日本ネパール女性教育協会
- 第2回【平成22年】 大 賞 田内 基 氏（ソーシャルワーカー）
奨励賞 長瀬 アガリン 氏（KAFIN（川口フィリピン人会）代表）
奨励賞 NGO アフガン孤児支援 ラーラ会
- 第3回【平成24年】 大 賞 アウンサンスーチー 氏（民主化運動指導者）
大 賞 台湾赤十字組織
奨励賞 松居 友 氏（ミンダナオ子ども図書館館長）
- 第4回【平成26年】 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか
特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
- 第5回【平成28年】 特定非営利活動法人 AAF(Asian Architecture Friendship)
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima

※第4回から大賞・奨励賞の区分を廃止



堺市 市民人権局 人権部 人権推進課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

電話 072-228-7420 FAX 072-228-8070

電子メール jinkensui@city.sakai.lg.jp

<http://www.city.sakai.lg.jp/>

堺市配架資料番号 1-D1-18-0229

平成30(2018)年11月発行